

新宮山彦ぐるーぷ第2235回

熊野修験春峰（玉置山↓前鬼）サポートとトレラン支援

◇実施日 5月13日（土）、14日（日） 雨

◇参加者 生熊敏男、畑林秀味、梶野照雄（泊3名）

松本吉殖、阪口雄二、中前偉（日帰り3名）

【行仙宿 5月13日（土） 雨】

午前10時45分に登山口に着く。殆どの人は集まっていたが、今日、明日の弁当を運んでいる車が到着せず、11時を過ぎてやっと到着した。小雨が降り出したので、昼食を済ませてから登る予定だったのを小屋迄行って昼食に変更し、モノレールに荷物を積んでスタートする。



登山口で



弁当を運ぶ



玄関に雨除け

モノレール終点から手分けして荷物を運ぶ。11日とは違って重い物が無いので雨の中でも普通に歩くことが出来る。

12時を少し過ぎて小屋に到着。荷物を整理したり、玄関前にシートを張ったりの作業を行う。12時40分から昼食を摂る。1時間ほどゆっくりし、日帰りの人が下山を始める。



日帰り組下山

「カマド」を試す

一行到着

雨は徐々に強くなって、春峰一行の到着も遅れそうだ。

午後3時頃から先日購入した「カマド」で薪を燃やしてみる。

開口部が大きい因此着火はスムーズで燃焼もよい。上に鉄筋を渡してヤカンを置いてみたら短時間で沸騰した。

午後4時過ぎから数名が笠捨山方向に出迎えに行く。大峰八大金剛童子の石碑まで登ったが、まだ到着までしばらくかかりそうなので小屋に戻った。小屋に戻ると法螺の音が複数聞こえて勤行しているらしく、もうすぐ到着することが判った。

午後5時過ぎ、スペイン人2名を先頭に春峰の一行が到着した。



春峰一行



お堂で勤行



夕食

お堂で勤行の後、閑伽行としてモノレール終点に置いたペットボトルを取りに向かう。中前、阪口の2名とスペイン人2名はここから下山した。スペイン人2名はスペインのテレビ局関係者で、道として世界遺産に登録されている「サンチャゴ・デ・コンポステーラ」と「紀伊山地の霊場と参詣道」をテーマにした番組制作の為、奥駈道を取材しているらしい。

小屋に戻って着替え、夕食を摂る。ストーブの周りに付けたフェンスが活用されたが、14人の人数ではとても足りず、ハンガーが足りなくなってしまう。今後はハンガーの数を増やし、雨の日は扇風機も用意して出来るだけ乾燥に努めたい。

30分ほどで夕食を終え、毛布を出して寝床の準備をする。午後8時に消灯予定を告げ、真っ暗な中を下山した。宿泊人数が多いので登山口に停めた車で就寝。夜中屋根を叩く雨の音で何度も目が覚めた。

(記：梶野)

行動タイム

10:45 補給路登山口 → 12:20 行仙宿 19:15 → 19:50 補給路登山口

【行仙宿 5月14日(日) 雨】

午前5時に起きて車内を片付ける。6時前、そろそろ登り始めようと思っていると角君が空のポリタンク10個を手に階段を降りてきた。これから持経宿へまわるそうだ。



雨の朝



エンジン停止



ここから歩く

6時過ぎにモノレールで登り始める。第一ベンチから伸びる作業道の手前で突然エンジンが停止し、何度セルを回しても始動しなくなってしまった。上の作業道までは約20m、この場所は何度も上り下りしているので雨の中でも不安は無い。モノレールのブレーキを確かめ、笠をさして歩いて行仙宿に向かう。

午前7時前に行仙宿着。熊野修験サポートの皆さんは帰り支度を始

めていた。余っていたサトウのごはんを頂き、管理棟で朝食を摂る。今日帰る生熊さん等にはモノレールエンジン不調を伝えた。



帰り支度



静岡のランナー



下山開始

全員が下山し、小屋には私と昨日から雨で停滞している逆峰登山者の2名が残るだけとなった。外気温は昨日からずっと12℃で、かなり寒い。ストープに火を入れてトレランの通過を待つ。

午前8時過ぎに一人のトレイルランナーが着いた。数年前に槍ヶ岳の摩看板設置の際、偶然通りかかった3人の内の一人で、トレランの大会とは関係なく同じ日に走っているらしい。

寒いのでコーラは無用、暖かいコーヒーを入れると大変喜ばれた。このランナーは静岡県の人で、大峰山脈が好きで何回も来ているらしい。今日は天候のコンディションが良くないので玉置神社から十津川に降りると話していたが、後日ネットにアップされたレポートでは、本宮まで走り切ったようだ。

20分ほどストープに近い場所で休憩し、雨の中を走り去った。

これ以後にランナーは通過せず、午前11時過ぎに下山を始めた。第一ベンチから作業道を経て、止まったモノレールに向かう。何度かセルを回したがエンジンは始動しない。そのまま放置しようかとも考えたが、林道までの距離は100mほど。ギヤを前進にしたままでそつとブレーキを解除する。下りの惰性でモノレールは降りていくが、3秒くらいでスピードが上がってくる。2秒くらいで停止し、完全に停止するのを確認してまた2秒下る。を繰り返して15分かけて林道まで降りた。



停止位置まで歩く



なんとか林道へ



きなりの湯

車で池原まで降り、きなりの湯のレストランで食事し、温泉に入つて温まる。駐車場で角君の車と出会った。持経宿から戻ってきたらしい。同じように温泉と食事のあと前鬼に向かうそうだ。昨夜は殆ど寝ていないので前鬼に行って車の中で眠るそうだ。午後2時前にきなりの湯を出て前鬼に向かう。小仲坊には車がたくさん停まっていた。



小仲坊へ



小仲坊



到着を待ち受ける

宿泊所には熊野修験サポーターと持経宿でリタイヤした3人の行者が待っていた。田代君が出迎えに太古の辻へ登って行った。一時間ほどして坂口さんが到着し、同じく太古の辻を目指した。暫く待っていたが到着が午後7時頃になるようなので、午後4時過ぎに小仲坊を後にして帰途に着いた。帰り道、川上村付近で一旦雨は上がったが、五條市からまた降り出し橋本、河内長野と降りっぱなしだった。(記：梶野)

行動タイム

06:05 補給路登山口→06:52 行仙宿 11:20→12:00 補給路登山口
→12:38 きなりの湯 14:00→14:51 小仲坊 16:15

【持経宿 5月14日(日) 雨】

◇参加者 沖崎吉信、湯川一郎、大江加予子・徳子、畑林清子
熊野修験 角聖史、東

コロナ前までは持経宿で接待のあと前鬼に移動してボランティア的作業を行っていたが、コロナ以後は春峰の行者さんの数が大幅に減り3年間前鬼に向かうことがなかった。

コロナの沈静化に伴い、今回の春峰では20名近い行者さんの参加があり、13、14日の両日ともかなりの雨量がある予報のために途中リタイヤする方の回収を持経宿で行う必要があった。

しかし雨の池郷林道である。晴れの日でも落石を除きながらの走行になる場合が多いので、通行に慎重にならざるを得ない。そんな折、村吉さんが3日ほど前に持経宿に向き「なんとか走行できる」との貴重な情報を頂いたので持経宿行きを決めた。

14日の午前7時過ぎ新宮組(山彦5名)と前日行仙宿泊の角、東の2名が加わり、沖崎、湯川、東の3車で持経宿に向かう。ゲートまでの村道部分は相変わらず尖った落石が多数でゆつくりと進んだ。25分程度でゲートに着く。ゲートから先は村吉さんが落石除去をしてくださったのか以外にも落石は少なく、予定していたより早く、午前8時過ぎに持経宿に到着することが出来た。

早速持参した接待用のコーラ、紅茶、バナナ、お菓子などを女性陣がテーブルに並べ、お堂の清掃を行う。沖崎、角、東の3名で千年桧まで登って、祠の清掃を行う。時間的に春峰の一行は中又尾根分岐辺りまで来ているだろうと思い、無線で呼びかけるが応答は無い。

角、東のお二人はここで待つ、とのことだったので沖崎一人で小屋に戻った。到着予定時刻の午前9時になってもやってこないの、村吉さんから頼まれていた雨水槽の詰まり解消を行う。落葉や泥を取り除き内側も磨き上げてきれいに清掃した。



到着したそう。田代真平君が天狗山まで登り雨衣を届けたので、事なきを得たようだ。皆さんお疲れ様でした。(記；沖崎)

午前9時30分、春峰の一行が持経宿に到着。勤行の後暖かい飲み物を振舞う。バナナも人気があったが、雨と低温でコーラよりも暖かい紅茶ばかりだった。

持経宿に到着した行者さんは14名、ここで3名(内一名が女性)がリタイヤ、東さんの車に3名が乗り先に下山した。

行者さんを見送って、後片付けを始める。幟や玄関前に張られたブルーシートを撤去、小屋とお堂内を清掃した。

雨は一向に止まず、奥駈には厳しいお天気である。春峰の一行の無事前鬼着を祈りながら見送ったが、帰りの林道で沖崎車がパンク。雨の中のタイヤ交換で苦勞した。

帰宅後に聞いたところによると、午後6時46分全員が小仲坊に